

全国一般 闘争情報

69
2004.12.10

東京都千代田区
三崎町 3-5-6
造船会館 5F

TEL 03-3230-4071
FAX 03-3230-4360

「もんじゅを廃炉に！ 12.5全国集会」開かれる 全国各地から 900 名、全国一般からは 200 名が参加



< 集会に参加する全国一般の組合員 >

「もんじゅを廃炉に」と訴え、

昨年を上回る仲間が敦賀の地に結集

12月5日、冬の到来を告げる北陸特有の雨まじりの寒風吹き荒れるなか、『もんじゅを廃炉に！ 12.5全国集会』が、福井県敦賀市で開催された。

核燃料サイクルの中心軸をなす高速増殖炉「もんじゅ」が1995年12月8日、運転から僅か3ヵ月でナトリウム火災事故を起こし運転中止に追い込まれて9年を経て政府・科技庁が「何としても」運転再開を目論んでいるなかでの闘いとなった。

しかしながら、私たちのこの「もんじゅを廃炉に！」の闘いに挑戦するかのよう、12月3日最高裁は一昨年1月、名古屋高裁金沢支部が出した『もんじゅ』建設違法』の判決に対して、口頭弁論の開始を告げ、高裁判決を覆す動きを見せた。そればかりか同じ12月3日に、かの8月13日の史上最悪の原発事故といわれている美浜原発3号炉の二次系配管の爆発事故(死者5名)によって止められてきた美浜原発一号機の運転を再開してきた。



< 3度にわたる全国一般独自集会 >

それだけに参加者の怒りはなお大きなものとなった。参加者は労働組合や市民団体ら全国から約900名が集まり、うち全国一般は産別として唯一最大の200名が結集した。浦中央本部委員長を先頭に、地元福井、石川、富山、長野、岐阜、大阪、滋賀、兵庫、奈良、そして愛媛の仲間が参加し、これまでにない広がりとなった。「もんじゅ」ゲート前で、美浜原発前で、さらに敦賀市民ホール前で、3度にわたる全国一般独自集会を開催し、怒りのシュプレヒコールと各自の決意表明を行ない、他の産別や地域の仲間から「全国一般ってすげえ



< 施設のゲート前までデモ行進 >

なあ」「組合はこうでなければ…」との声も聞こえてきた。

また、石川地本では参加した53名の組合員とともに、中央本部の作成したパンフをもとに、行き帰りのバスのなかで今年も学習会や感想会を開催し、闘いの意義を確認しあってきた。

今、集会に初めて参加したという仲間からは、「こういう闘いが労働組合として取り組まれていることに感動した。初めて経験した。原発がいらないことも分かった」との声や「小出先生の講演を聴いて、電力が手段で、プルトニウム・核兵器・核武装が目的になっていることが分かった」との感想が寄せられている。このように、今回の取り組みは大きな成果をあげている。この闘いを職場に伝え広げることが参加者全員で誓い合い、この日の闘いを終えた。

「もんじゅとは？」

動力炉・核燃料開発事業団が1985年敦賀市で着工し、94年4月、核分裂が連続する臨海を達成する。最大出力28万kw。

発電しながら、消費した燃料以上の燃料を生み出すことが可能な高速増殖炉で、実用化に向けた研究段階の原型炉。95年に試験送電を開始し、同年にはナトリウム漏れ事故を起こした。

もんじゅのプルトニウムは、それだけで核兵器の原料になると言われるほど純度が高い。朝鮮民主主義共和国(北朝鮮)の「核開発」が楯玉にあげられているが、日本は国際的にはトップクラスのプルトニウム保有大国。

2003年1月、もんじゅに対し、「国の原子炉設置許可を無効」とする高裁からの控訴審判決が出されてきた。しかし、文部科学省と経済産業省は、それに対し、「高裁判決は非論理的、非科学的」と言い、「もんじゅ」の必要性を強調し、判決内容を批判した。



1月の主な日程

- ・ 1月25日(火) 中央本部五役会議
- ・ 1月26日(水) 第4回中央執行委員会
- ・ 1月26日(水) 第1回中央委員会
- ・ 1月26日(水) 連合笹森会長との対話集会



労働者のための銀行

「ろうきん」のご利用を!